

第14回「資本論を読む会」

第二巻第2章第2節「蓄積および拡大された規模における再生産」から [岩波文庫(四)p115-]。

☆4月28日(月曜日)

午後6時30分-Zoomで開催

3月27日の「資本論を読む会」は9人で開催。今回は第2章「生産資本の循環」に入りましたがまだ難解さは続き、第1節「単純再生産」の項だけで終了。前回報告したように座長が復活。その後の懇親会も含めて11時頃まで意見交換したのですが、支局から既に報告されたように「A1のレコーディング」の威力はすさまじいですね。

この模様は「要点-この会議では、新型コロナウイルスの変異株や対策について議論した後、マルクスの資本主義理論に関する学習と議論が行われた。その後、参加者たちは高齢者の健康や生活、労働組合や政党による国際交流活動の現状と課題、友好連帯運動の将来、教会内の世代間の意見相違、そして政権制作研究会について意見を交換した。最後に、ソ連の経済状況や歴史的評価に関する議論が行われ、次回の会合日程が確認された。」(ママ)とまとめられていました。

若干の補足をすると「読む会前の雑談で座長の復活を祝い、入院・胃腸炎はウイルス性のものだったようで、原因は不明。A1さんは生産資本の循環の議論や学習内容には余り関心ないようで、終了後の懇親会での飲席での時事・情勢などの話題が中心で-関心があった」ということですね。「飲んだ席」での議論は、正確ではありませんがポイントは突いているし、読んで面白いものです。再読をおすすめします。でもこうしてまとめられると複雑ですね。それにしてもすさまじい発展です。うかつな話は出来ません。

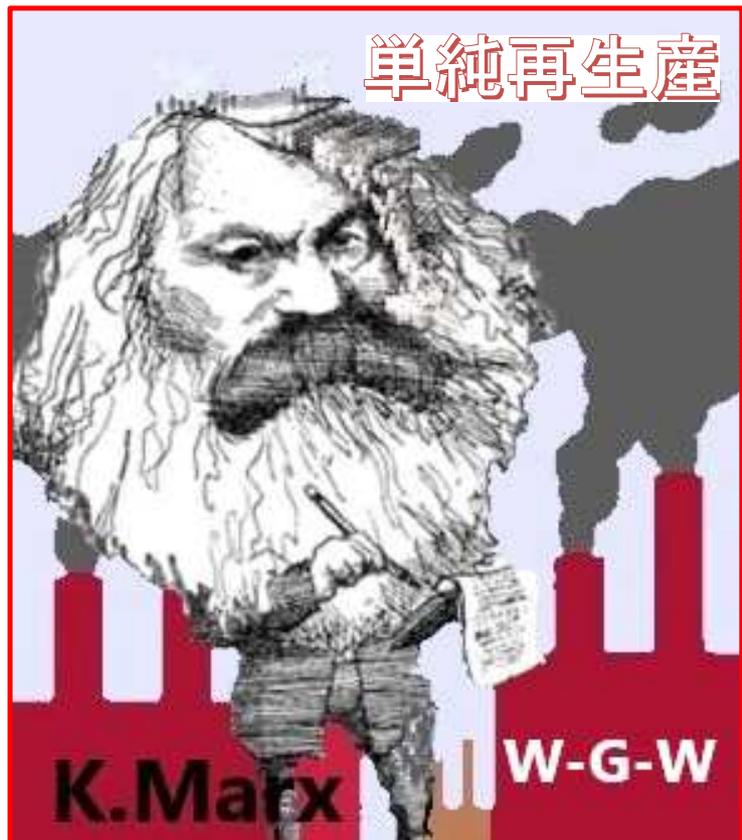
今回は第2節の「拡大再生産」の話に入り「第3節貨幣蓄積と第4節予備金」を終わらせようという話になっています。レポーターは引き続きanakとSugiさんです。よろしくお願ひいたします。

☆「資本論を読む会」の最初からの資料は下記ホームページでご覧になれます。

◎ <http://socialistho.cafe.coocan.jp/>「資本論を読む会」オープン・コーナーにあります。

レポーターから-anak

DAS KAPITAL



第2章 生産資本の循環

(生産資本の循環)一般定式は「P...W'-G'-W...P」

・第一に、第1形態(貨幣資本の循環、G...G')では生産過程(A-Pm)が媒介になっていたが、ここ(生産資本の循環-第2形態、P...P')では流通が媒介となる。

・第二に、総流通は、第1形態のG-W-G'に対し第2形態はW-G-Wと正反対の形態をとる。

第一節 単純再生産

①結論...単純再生産 = g-w が G-W から全く分離されること

生産資本の機能は剰余価値の生産であるが、剰余価値(g)が資本価値(G)と分離して循環するかどうかで、循環の性格(単純再生産か拡大再生産か)が決まる。

gが資本家の収入となり個人的消費に支出され、資本の流通とは別個の軌道を描くのが単純再生産である。

※図解 p110-(生産資本の循環)定式を明細にした形態は

$$P \dots W' \begin{pmatrix} W \\ + \\ w \end{pmatrix} - \begin{pmatrix} G \\ + \\ g \end{pmatrix} - W - (A, Pm) \dots P$$

・「w-g-w」は、単純な商品流通である。

・「w-g」は、商品資本の流通 W-G'に、したがって資本の循環に含まれている。

・「g-w」は、この循環から分離された一般の商品流通行程として、循環の外で行われる。

・「W-w」(資本価値と剰余価値との流通)は、WのG'への転化の後に分裂する

⑤資本家の収入としての「w-g-w」は、wが商品資本というその機能形態にある資本Wの価値部分であるかぎりでのみ資本流通に入る。この流通の目的は、資本家の個人的消費である。